

行財政改革推進本部会議

《 令和4年3月9日 》

(案 件)

1 令和3年度議会による行政評価、施策評価の予算措置の状況について

2 その他

令和3年度 議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

<資料一覧>

	ページ
資料1-1 森林保全	3~5
資料1-2 漁業振興	6~7
資料1-3 下水道整備の推進	8~9

令和3年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

市総合評価 A:計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進す
 B:ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。
 C:目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
 D:目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

施策評価名	担当課	施策内容	市 評価	議会 評価	議会評価【総括コメント】	R4年度 当初予算額	R3年度 当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度 決算額)
森林保全	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> 森林の公益的な機能を充分に発揮できるよう、保安林事業をはじめ森林保全のための事業を継続的に実施していきます。 放置森林対策について関連団体を通じて意見を集約するとともに、新たな森林管理制度と併せて、多様で健全な森林の整備を図ります。 (現況と課題) <ul style="list-style-type: none"> 森林の持つ公益的な機能を発揮するための国土の保全や山地災害の防止は、森林所有者や地域の理解を得て継続的に事業の促進を図っていく必要があります。 国内産の需要の減少から、放置された森林が増大しており、対策が求められています。 森林所有者の総合的な意見の集約や要望等が具体的に把握できていないため、森林所有者の意識調査等を実施する必要があります。 	B	拡充	昨今の土砂災害、洪水災害の根本は自然界のバランスが崩壊しつつあることが原因であり、SDGsの観点も加味して、林業振興による森林保全が防災対策上、喫緊の課題である、との共通認識を委員会として有する。 森林環境譲与税等の財源を活用しながら、間伐等を積極的に推進できるように、振興協議会をはじめ産官学民連携で、森林保有者との合意形成を図りながら、新たな財源創出も含めた対策に当たってほしい。 改正公共建築物等木材利用促進法の動向にも注目し、域内における林業のマーケット拡大を図りながら、林業従事者の確保・育成にも注力すること、林業振興に努め、持続可能な森林経営を実現し、自然との共生によって防災・減災の先進都市をめざすべきである。	16,154	15,665	489	8,760
予算措置状況									
この施策を構成する2事業の令和4年度当初予算額と令和3年度当初予算額を比べると、489千円(3.1%)の増となっている。これは、施策を構成する林業振興対策事業で1,433千円の減となったものの、林道維持管理事業において、1,922千円の増となったためである。									
※増減理由は各事務事業に記載									

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止 (完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市評価	議会評価	議会評価【個別コメント】	R4年度当初予算額	R3年度当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度決算額)
1	林業振興対策事業	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備事業の調査等に関する業務 ・国定公園保全対策協議会(公園区域内の森林保全及び清掃活動を中心とした山地美化キャンペーンを行っている) 関係事務 林業関係者同士の交流・情報交換 ・泉佐野緑の少年団(市内の小中学生を対象とし、植樹などの緑と触れ合う活動、緑の募金、森林学習等を実施) ・一般市民への森林・林業の普及活動 	B	-	<p>○多くの課題があるなかですが、林業従事者等と協議を重ねながら、持続的に木材を利用出来る道の模索を願っています。木工品に付加価値をつけるために異業種の方々とのコラボレーションなども必要だと感じます。クリエイターなどの作品表現で利用してもらおうなど検討できることを期待します。</p> <p>○林業の活性化を図るために、間伐材の有効利用について積極的に取り組んで頂くことを要望します。山地美化キャンペーン等を行っていただいています。その点も一般市民への啓発もして頂けるように要望します。</p> <p>○林業従事者を農林水産課に配置し、専門的な見地から事業展開を推進すべきだと考えます。同時に、奈良県等の林業で成功している事例の視察を通じて、林業振興に本腰を入れる必要があると考えます。まずは、市内における木材のマーケット需要を喚起するための攻めの姿勢が必要だと考えます。</p> <p>○間伐により林内に適切な光が射し込み、下草などの下層植生が繁茂しているため水源かん養機能や土砂流出防止機能が高くなる。幹が太く、生育が良くなり、風や雪にも折れにくくなる。下層植生が豊かになり、多様な生物の生息を維持できるようになる為、森林の正常化を目指して頂きたい。それにより、イノシシ等が農作物を荒らさないことにも繋がるし、間伐材を利用した事業が活性化すると思います。</p> <p>○泉佐野地域の35%を占める森林地域(1970ha)の振興対策予算は、いままでも少なすぎたのではないかと。(R2年度で600万円余り)今後も予定されている森林環境譲与税(1000万円超)も活用し、災害予防の観点からも森林保全策を実施されたい。</p> <p>○林業祭や山地美化キャンペーンも良いが、観光部局と連携して、日本遺産の日根荘や葛城修験を多くの人に体験してもらえるように整備を更に進めてもらいたい。</p> <p>○間伐材の利用を地産地消と考え、公園遊具や木製ガードレールへの利用など、新たな視点での有効利用を検討してください。また、「バイオマスエネルギー」など先進的な活用方法についても研究を進めてください。</p>	11,009	12,442	△ 1,433	1,982
予算措置状況										
<p>令和3年度比は、金額で1,433千円、率にして11.5%の減となっている。これは、今年度より計画的に森林整備事業を実施する予算が増となった一方で、森林整備事業を実施するために必要な地番図作成や森林所有者等への意向調査を、R3年度に実施したことから、R4年度においては当該業務が減となったことが影響したものの</p>										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R4年度 当初予算額	R3年度 当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度 決算額)
2	林道維持管理事業	農林水産課	林道維持管理(災害発生時の初期対応含む)にかかるとる原材の支給や重機の借上げ、トンネルの維持管理(照明等)、林道の管理パトロール、大雨等の災害発生時の初期対応。	B	—	<p>○土砂災害の予兆を見逃さぬようにお願いたします。事前に予防できるとの一番いいのですが、今までの経験が生かせない災害が続出していますので、細心の注意をお願いいたします。</p> <p>○近年の異常気象の実態を考え、土砂災害などの対策が重要であるので拡充とした。</p> <p>○林道については、泉佐野の生活道以外にも和歌山からの生活道に必要です。現状危険な箇所がたくさんあると聞きました。災害があればもつと危険になる為、予算が無いからと言わずどうすれば危険場所を改善できるかを基本に考えて頂きたい。</p> <p>○近年の豪雨災害多発の状況から、林道の維持管理は重要性を増していると考えます。計画的な維持管理に努められたい。</p> <p>○同様に登山、山歩きで訪れる人たちが安心、安全な林道整備を行って行ってもらいたい。</p> <p>○林業発展には林道の整備は不可欠と考えます。行政が中心となって整備に取り組んでください。</p>	5,145	3,223	1,922	6,778
予算措置状況										
令和3年度比は、金額で1,922千円、率にして59.6%の増となっている。これは、近年頻発する土砂災害等を現場確認する際、危険な状況を早急に確認し対応するため林道修繕にかかる原材料費や重機借上げ料の予算を増額としたことによるもの。										

令和3年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

資料1-2

- 市総合評価 A:計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。
 B:ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。
 C:目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
 D:目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

施策評価名	担当課	施策内容	市評価	議会評価【総括コメント】	R4年度当初予算額	R3年度当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度決算額)
漁業振興	農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> ・魚食普及、漁業振興を図るため、若年層が魚にふれあう機会としての体験漁業を進めるとともに、漁港区域の賑わいづくりの事業を推進します。 ・獲る漁業とともに、つくり育てる漁業を進め、資源が豊富な魚場の回復に努めることにより、将来の担い手にとって魅力ある漁業の活性化を図ります。 (現況と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の減少や燃油価格の高騰等によるコスト増加が漁業経営を圧迫し続けており、さらに近年は、地球温暖化などの影響を受け、海水温が上昇傾向にあり、寒冷性の魚種の減少、暖海性の魚介類の増加といった海洋生物の生息の変化も経営に影響を与えています。このような状況であるため、新たな技術の取得や今までに無い水産物販売戦略に必要な調査、研究を行う必要があります。 ・水産資源の回復を目的に、種苗育成を支援しています。しかし、限定された魚種であり数量的にも十分とは言えず、漁獲量も減少の傾向にあります。今後は、府や近隣市町に働きかけて同様の事業を広域的に展開する必要があり、漁業への理解や魚食普及を図るため、体験漁業などの事業やPR活動を展開しており、市内で一定の評価を得ていますが、今後も多様な取り組みによる普及活動が求められています。 ・漁港や青空市場を含むフィッシュマンズ・ワーフ構想区域は、海鮮施設開設などで賑わいが見られますが、今後も漁業振興に資する施設が求められています。 	B	現状維持				
				2048年問題を見据え、SDGsの観点で魚庭(なにわ)の海を取り戻すための海洋環境の改善策を図りながら、広域的なつくり育てる漁業の推進を図ること、水産資源の保全・漁業振興を図る必要がある。 漁業組合をはじめ、大阪府並びに関西エアポート株式会社等との産官学民協働で、次世代が漁業・魚食に関心を寄せられるような取組の継続と創出、マーケティングにおける魚食への新たな付加価値の創出、日本遺産のストーリーを活用したブランディング、青空市場や道の駅構想等の販路確保で、漁業振興を図るべきである。	5,736	5,676	60	5,495
議会評価【総括コメント】					予算措置状況			
					この施策を構成する事業は漁業振興事業の1事業のみとなっている。令和4年度当初予算額と令和3年度当初予算額を比べると、60千円(1.1%)の増額となっている。 ※増減理由は事務事業に記載			

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止(完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市評価	議会評価	議会評価【個別コメント】	R4年度当初予算額	R3年度当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度決算額)	
1	漁業振興事業	農林水産課	漁業振興のため以下の事業を実施している。 ・種苗放流事業(抱卵ガザミ放流事業) ・地域の小学生に対し漁業体験事業(地曳網体験事業) ・泉佐野フィッシュャーマンズ・ワーフ地区の活性化事業	B	-	○現状維持でお願いいたします。漁業資源の減少が大きな問題となっており、現事業を継続しながら、禁漁区の保護を行う中で豊かな漁場が広がるように願っています。今後、日本遺産や道の駅等と連携しながら新たな取り組みの創出を期待しています。 ○子供たちが、魚介類に興味を示せるように今後も地曳網体験事業の継続は必要だと思えます。魚食普及を図るため、漁港や青空市場の整備は重要であると考えます。施策の方向性は現状維持としましたが、今後魚食普及を図る事業の展開を望みます。抱卵ガザミ放流事業を広域で取り組んでいる事には評価します。そのことにより、市民の皆様も気軽にワタリガニを食する事ができるように望みます。 ○関西国際空港にまたがる2市1町と関西エアポートと連携して、空港島周辺の禁漁区を解禁し、年に一度の「海祭り」を開催したいかと思いますが。	5,736	5,676	60	5,495	
予算措置状況											
令和4年度当初予算額と令和3年度当初予算額を比べると、60千円(1.1%)の増額となっている。							これは、漁場について、環境調査を行うための補助金制度を設けたことによる。				

令和3年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

資料1-3

- 市総合評価 A:計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。
 B:ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。
 C:目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
 D:目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

施策評価名	担当課	施策内容	市評価	議会評価【総括コメント】	R4年度当初予算額	R3年度当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度決算額)
下水道整備の推進	経営総務課 下水道整備課	<ul style="list-style-type: none"> 汚水の整備については、事業量の拡大により人口普及率の向上を図ります。 雨水の整備については、着実に整備を進め、市内の浸水被害の軽減を図ります。 (現況と課題) <ul style="list-style-type: none"> 下水道は、暮らしに必要不可欠なライフラインであり、安全で快適な生活環境の確保と公共用水域の水質の保全を図るための重要な役割を担っています。 公共下水道汚水整備に係る人口普及率は、41.5%(2020(令和2)年度末)と府内でも低水準にあります。水洗化率は91.0%となっております。なお、2020(令和2)年度の公共下水道及び浄化槽を含めた生活排水処理率は79.35%となっております。 公共下水道雨水整備については、主要な幹線管渠整備率は90%以上に達しており、今後も市内の浸水被害軽減に向け、着実に整備を進めるとともに、施設(雨水ポンプ場)の老朽化対策を実施していく必要があります。 下水道事業については、2020年度(令和2年度)に地方公営企業法を適用、公営企業会計へ移行し、下水道経営に取り組んでいます。 	B	下水道普及率を向上させることはもちろん、昨今の想定外の水害に備えるための水路の整備と計画策定、新たなハザードマップの策定が喫緊の課題である。 安心安全の確保をはじめ、生活環境の改善を図り、定住人口の増加をめざす為にも、普通会計からの繰出の増額等を行い、整備計画の前倒しを行う必要がある。 防災・減災を図る為にも、町会、土地改良区、消防団等とも密なる連携を図りながら水路の整備計画やハザードマップの策定を行い、それを活用した市民の意識を向上させられる取組を実施すべきである。	49,444	47,331	2,113	41,640
予 算 措 置 状 況								
この施策を構成する事業は排水施設管理事業の1事業のみとなっている。令和4年度当初予算額と令和3年度当初予算額を比べると、2,113千円(4.5%)の増額となっている。					※増減理由は事務事業に記載			

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止(完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市評価	議会評価【個別コメント】	R4年度当初予算額	R3年度当初予算額	増減額 (R4-R3)	備考 (R2年度決算額)
1	排水施設管理事業	経営総務課 下水道整備課	<ul style="list-style-type: none"> 市内一円スクリーン清掃業務水路の通水阻害とならないよう、適宜スクリーン清掃を行う。 浸水対策用ポンプ点検業務計画以上の降水量による浸水の発生に対応する為、その対策として浸水対策用雨水ポンプを設置。降雨時に適正に稼動するよう定期的に保守点検(5回/年 10箇所16台)している。 円田川排水ポンプ設備維持管理業務 施設が適正に稼動するよう定期点検を実施。ゴミを当ポンプ場で引き上げ処分する。 	B	<p>○自然災害対応なども考えて、出来るだけ早く整備してほしいと思います。</p> <p>○この頃のゲリラ豪雨など自然災害による河川の氾濫が懸念されます。市民生活の安全のため重要な事業であると考えます。また河川への不法投棄禁止の啓発に努めて頂いているが更に強化して頂くことを要望します。方向性は拡充としました。</p> <p>○引き続き、委託業務の点検、ゴミ対策にご尽力をお願いします。</p> <p>○円田川の排水ポンプだけに頼らず、市民の協力でゴミを出さないように啓発運動を計画すべきでは。</p> <p>○近年の豪雨災害の多発など、日ごろからの排水施設維持管理が重要と考える。事業の拡充に努力されたい。</p> <p>○市内一円のスクリーン清掃業務は5月から10月に2回、それ以外は月に1回とお聞きしたが、円田川中心に川にゴミが捨てられる、或いは落ちることを防ぐことが重要だと考える。環境衛生課と連携して川へのゴミの不法投棄や軽量ゴミが風で飛ばされ川に落ちないように啓発するなど行って頂きたい。</p> <p>○近年、豪雨による洪水被害が甚大であることを考えると浸水対策雨水ポンプ点検の強化を図るべきと考えます。</p>	49,444	47,331	2,113	41,640
予算措置状況									
						<p>令和4年度当初予算額と令和3年度当初予算額を比べると、2,113千円(4.5%)の増額となっている。</p> <p>これは、円田川排水ポンプ設備において、自動除塵機及び電気設備の修繕料が増えたことにより需用費修繕料が4,201千円増となる一方で、令和3年度は、円田川排水ポンプ維持管理業務等の委託料が入札年であったため、その結果を踏まえ、令和4年度は随意契約によることから1,755千円減額となるなどの影響による。</p>			